

きのくに自主防災

第28号 (令和3年3月号)

<発行元>

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局 (和歌山県庁防災企画課内)

海南市 塩津区防災会が防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞！

以下の取り組みが評価され、海南市 塩津区防災会が防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。令和2年9月4日に総理大臣官邸で行われた表彰式には、脇所 武夫会長が出席されました。

塩津区防災会では、「自分たちでできることはすべてやる」を合言葉に、消防団や地域団体などと連携し、地域一体となり、力を合わせて防災活動を実践しています。

また、同防災会では、家族構成や緊急連絡先を記載した「防災住民台帳」を作成し、災害時に避難支援を希望する方の情報を地域で共有するなど、避難行動要支援者対策に重点的に取り組んでいます。

令和元年度には、南海トラフ巨大地震発生を想定した津波避難訓練や避難所運営訓練を実施するとともに、地元小・中学生、全国から集まった大学生、福祉系専門職、一般ボランティアと連携した災害ボランティア活動訓練を実施し、受援体制の強化にも努めました。



表彰式 (脇所会長・中段左)

和歌山市 松江地区防災会が和歌山県知事表彰を受賞！

以下の取り組みが評価され、和歌山市 松江地区防災会が和歌山県知事表彰を受賞しました。令和2年10月6日にアバローム紀の国で行われた表彰式には、川口 敏夫会長ら3名が出席されました。

松江地区防災会では、発足以来19年にわたり、世代交代をしながら一致団結して継続的に防災活動に取り組んでいます。

同防災会では、平成26年度に、地震・津波に備えた「防災・減災マニュアル」を作成し、地区住民に配布しました。また、南海トラフ地震や豪雨災害に備えて策定している「松江地区防災計画」に基づき、毎年1000人規模の防災訓練を行っており、令和元年度は、避難訓練や救出・救護訓練、起震車体験など様々な訓練を

行いました。

さらに、地区内には、大地震が発生した際に遮断される可能性のある避難路が多いことから、住民がまち歩きを行い、危険個所の確認や課題の洗い出しをし、勉強会やワークショップで検討を重ねています。まち歩きによって得られたことは、「防災・減災マニュアル」にも反映しています。



表彰式 (川口会長ら・上段左)

4県連携自主防災組織交流大会が開催されました！

4県連携自主防災組織交流大会とは？

南海トラフ地震発生時に甚大な被害が予想される三重県、徳島県、高知県、和歌山県の4県が連携し、共通課題である自主防災組織の育成や活動活性化を目的として、平成18年度から毎年、開催県を交代しながら開催しています。

令和2年度は三重県で開催！（オンライン開催）

令和2年度の交流大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年1月24日（日）にオンラインにて開催されました。

三重県防災企画・地域支援課長が開催の挨拶を行ったあと、交流大会の前半では、4県の自主防災組織代表者から活動事例について発表し、後半では、三重大学大学院工学研究科 准教授 川口 淳氏がコーディネーターを務め、パネルディスカッションが行われました。

本県からは、広川町東町防災会議 富上 博司氏が代表者として出席しました。



オンライン開催の様子



広川町東町防災会議の発表の様子

4県の自主防災組織による活動事例発表		
三重県四日市市	浜田地区自主防災組織連絡協議会	・・・P.3
和歌山県広川町	東町防災会議	・・・P.3
高知県いの町	是友・奥名自主防災会	・・・P.4
徳島県	自主防災組織委連絡会	・・・P.4
パネルディスカッション		・・・P.5

●活動事例発表

三重県四日市市 浜田地区自主防災組織連絡協議会 会長 山路 和良氏

○防災訓練3年計画

浜田地区では、平成29年度より、地域の若い世代の力を活用するため、地区の中学校と合同で防災訓練を実施しています。

1年生からの3年間で異なった訓練を体験できるように、訓練内容を3年サイクルで計画しており、1, 2年生のときに訓練で体験したことを3年生でどのように発展させるかを地域全体で見守っています。ボールを使用した救出訓練や避難路点検訓練、炊き出し訓練など様々な訓練を実施しました。

○感染症対策避難所運営シミュレーション

令和2年度は、感染症対策をふまえた避難所運営訓練を行いました。受付では検温を実施し、体調不良の方とその他の方の動線を分けて避難スペースに誘導します。体調不良の方には、事前に確保した別室に入ってもらいました。



ボールを使用した救出訓練



避難者事前受付

和歌山県広川町 東町防災会議 富上 博司氏

○稲むらの火

安政の大地震による津波の際、濱口梧陵が広村（現在の広川町）で貴重な稲むらに火を放ってこれを目印に村人を誘導し、多くの命を救ったことは、今も広く語り継がれています。その後、濱口梧陵が築いた防波堤は、後の津波による被害を最小限に抑えました。

○広東避難施設「まもるくん」

東町防災会議は、7つの自主防災組織で組織されており、一体となって活動を行っています。

地域住民801名の署名を添えた東町防災会議の要望により、広東避難施設「まもるくん」が建設されました。「まもるくん」には、発電機や消防車庫、打ち込み井戸などが設備されています。

○防災訓練

東町防災会議では、「まもるくん」を拠点とした防災訓練を実施しています。令和元年度は、消火栓ホース接続訓練や、発電機・浄水装置操作訓練、炊き出し訓練などを行いました。



広東避難施設「まもるくん」



広婦人会による炊き出し訓練の様子

いの町について

いの町は、海に面していないため津波被害は発生しないとされていますが、低地部は低奥方地形のため河川流下能力が低く、過去何度も内水害の被害を受けてきました。

○防災は共助の環境づくりから

是友・奥名自主防災会は、「防災の原点は、共助の環境づくりから」という方針のもとで活動を行っています。

役員として防災委員や防災隊員を設定し、班単位での防災活動もサポートします。また、要配慮者や準要配慮者を支援する「お助けマン」が各班で選任されています。

地区では、防災訓練・研修や消火・救命訓練を定期的に行っています。また、地域行事に併せて炊き出し訓練を実施したり、地区運動会の種目として消火訓練やバケツリレーを実施するなど、地域の活動の中うまく防災を組み込むことで活動の活性化につながっています。夏祭り準備や地域の花街道の整備など、地区の活動も積極的に実施しています。



防災マップの確認



地区運動会の様子

○徳島県自主防災組織連絡会とは

平成19年度に設立し、徳島県内各市町村の自主防災組織の代表者で構成されている組織です。県内自主防災組織の充実強化や、自主防災組織間の連携による防災活動の活性化に取り組んでいます。

定期総会を開催し、事業報告や意見交換、さらに行政からの最新の情報提供を行っています。

○他団体との連携

中小企業の担い手である、日本青年会議所徳島ブロック協議会と連携し、相互のネットワークを生かした防災活動に取り組んでいます。青年会議所は、消防団や自主防災組織への加入促進に取り組んでいます。また、同連絡会は、日本赤十字社徳島支部とも連携して防災活動に取り組んでいます。



定期総会の様子



日本青年会議所との連携

●パネルディスカッション

地域の自主防災活動の経験を踏まえてパネルディスカッションが行われました。ここでは、ご意見の一部を紹介します。



コーディネーター

三重大学大学院工学研究科
准教授 川口 淳氏

パネリスト

各県自主防災組織代表者

川口先生より質問

○三重県に質問

中学校と連携して活動しているが、なぜ中学校に目を付けたのか？

(A) 四日市市は街中なので、昼間の人口と夜の人口の差異が大きいので、昼間に災害が起こった際に高齢者をどう避難させるかと考え、中学校と連携することとなりました。中学生がこの先どこに行っても役に立つ人間になってほしいとの地域の思いもあります。

○和歌山県に質問

防災に携わる者にとって、広川町はいわば聖地であり、稲むらの火の話は三重県の子供たちにも伝えている。なお、防災会議の位置づけや役割は？

(A) 稲むらの火の話については、小中学校の授業ではもちろん、家庭でも話をしており、精神は今も受け継がれています。

防災会議は、7つの自治会・自主防災組織、その他消防団や婦人会、子供会が一つにまとまっています。会計も一つに統一しており、一体となって活動を行っています。

○高知県に質問

防災委員や防災隊員、お助けマンなど、人材の確保に苦労は？

防災マップは毎年更新するということが、何を書き込んでいる？

(A) 地域のグランドゴルフで仲良くなった元気なメンバーや、その方からの推薦で引き受けていただいております。あまり苦労することはありません。

防災マップには、住民の情報や家の外観の写真なども載せています。長年更新されない状態が続いていたので、自主防災組織で引き受け、委員の更新のタイミングで毎年更新を行い、地区住民に共有しています。

○徳島県に質問

連絡会の総会には誰が出席する？連絡会の実際の役割は？

(A) 徳島県内24市町村の自主防災組織の代表、行政などが総会に出席します。行政が同席していることで物事がスムーズに進みます。

連絡会としては、県のフェスタへの参画や個々に動く自主防災組織のサポート、ボランティアなど他機関との調整を行っています。

川口先生の講評

自主防災組織の数だけ活動の仕方があるので、それを共有することで、失敗を学び、いいやり方を取り入れることができます。この場を大切に、立派な地域づくりに励み、その結果をまたこの会で報告していただけたらと思います。

和歌山県オリジナルの災害対応シミュレーションゲーム 「きいちゃんの災害避難ゲーム」が完成しました！

津波による犠牲者ゼロのため、災害時の迅速な避難行動や日頃からの備えの重要性、円滑な避難所運営のために必要となる協力体制などについて、楽しみながら実践的に学べる教材として、和歌山県オリジナルの災害対応シミュレーションゲーム「きいちゃんの災害避難ゲーム」がこの度完成しました！
2つの災害対応の模擬体験ができるボードゲームになっています。

ゲーム1 津波から逃げ切ろう！



(内容) 冬場の悪天候の早朝に南海トラフ地震が発生する想定のもと、自宅から避難路を通って避難場所まで津波に追いつかれずに無事逃げ切ることができるか。事前準備の大切さを学びながら迅速な避難行動を身に付ける。
残り時間や事前準備などで得られる防災ポイントをチーム間で競うゲーム。
(対象) 小学校高学年から

ゲーム2 みんなで協力して 避難所運営しよう！



(内容) プレーヤーがそれぞれ市町村の避難所運営本部の担当班長になり、時系列で発生する避難所内外の課題やトラブルに迅速に対応する。
対応できた場合に得られるポイントをチーム間で競うゲーム。
(対象) 高校生から (実際に避難所を運営する人材を想定)



外箱



ゲーム1 (ボード面)



ゲーム2 (ボード面)

「きいちゃんの災害避難ゲーム」は、4月上旬より市町村や振興局に貸し出し用として約400セット配備する予定です。お問い合わせはお住まいの市町村防災担当課室または振興局総務県民課までお願いします。

また、印刷して活用出来るよう、和歌山県ホームページへも4月上旬より掲載予定です。
地域での訓練や学校での防災教育などでぜひご活用ください！

毎年6月1日は「自主防災組織の活動の日」です！

災害発生時には、自主防災組織による「共助」が災害から命を守る重要な役割を果たします。県では、自主防災組織による「共助」の活動を促進するため、毎年6月1日を「自主防災組織の活動の日」と定めています。集中活動期間（5月26日～6月8日）を中心に、地域で積極的に自主防災組織の活動を行いましょ。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、地域一斉の自宅でのシェイクアウト訓練、避難バッグ・備蓄品の準備、避難場所・避難経路の確認、家具の固定やブロック塀の点検など、三密を避けながらできる活動に取り組みましょ。

皆さんも、一人ひとりが「自分たちの地域は自分で守る」という意識を持ち、そして、地域住民みんなで協力・連携して、防災活動を行いましょ！また、自主防災組織を結成していない近隣地域の方々には、皆さんからのお声かけをお願いします。



◆和歌山県防災ナビアプリ

南海トラフ地震など大規模災害時の的確な避難を促進する防災ポータルアプリです。

近くの避難先の検索ができたり、防災情報をプッシュ通知でお知らせしたり、災害時の家族の居場所を確認できたりといった、災害時に役立つ様々な機能があります。

無料でご利用いただけます。
アプリのダウンロード・ご利用にかかる通信料は利用者のご負担となります。



◆防災わかやまツイッター

災害時に市町村が発令する避難勧告や、土砂災害警戒情報などの情報をお知らせします。

甚大な被害が発生するような災害が予想される場合の注意喚起や、新たな防災に関する取組も発信します。

ぜひフォローしてください。

「防災わかやま」
@bousaiwakayama



＜お問い合わせ先＞
災害対策課(073-441-2261)

「きのくに自主防災」に掲載する防災活動事例を募集しています

きのくに自主防災では、地域で防災活動に取り組まれている方々の活動事例を募集しています。自主防災組織の訓練、普段の活動の取組や、学校と連携した防災活動など特色ある活動事例をご紹介いただける場合は、ご連絡をお願いします。

※紙面の都合によりご紹介いただいたものすべてを掲載できない場合もございますので、予めご了承ください。

【お問い合わせ先】 和歌山県総務部危機管理局防災企画課

TEL：073-441-2271 FAX：073-422-7652